

学 園 報

No.58

富山国際学園 URL <https://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

高校教育、最近の話題



理事長
金岡 克己

令和8年度予算が承認され、高校授業料の無償化が実現されることになりました。厳密には、支援額の上限が定められ、授業料以外の負担金は残りますので、高校の完全無償化ではありません。しかしながら、子育て家庭には大きなプラスがあるものと思います。

OECD（経済協力開発機構）加盟の先進38カ国において、公的教育支出の総公共支出に占める割合、また対GDP比は日本が最低ラインです。ヨーロッパを中心に約半数の加盟国で、大学までの授業料が無償化されています。

教育に対する公的支出については様々な議論があります。一方、明治維新以降の急速な近代化が、江戸時代の寺子屋の普及による識字率の高さに起因するとの指摘もあり、教育を個人だけではなく未来への社会的投資と捉えることができると考えます。

なぜ教育予算が増えないのでしょうか。理由は高齢化に伴う医療、年金など社会福祉負担の急速な増大です。今年度予算の地方交付税交付金等を除く一般歳出は70.1兆円。国が直接支出する社会保障費39.1兆円に対し、文教及び科学振興費は6.0兆円です。

高齢者の優遇は、1969年東京都が老人医療費無料化を打ち出しことに始まります。老人無料パスの発行も行われました。当時は、現役世代10人で高齢者1人を支える構造です。現在は2人で1人、20年後には1.5人で1人ですので持続可能とは言えません。

人口ピラミッドが大きく変化し、高齢者優遇に限界があるにもかかわらず、政策を変更しなかった政府、官僚、そして異議を唱えない政治家、マスメディア、

国民にも責任があるのではないのでしょうか。出生率の低下は先進国共通の現象ですが、日本の場合、現役世代の負担増に目を瞑り続けた結果、より加速した

のではないかと思います。負担感が先に立ち、子育てを楽しみと感ずる心の余裕が失われているのです。

もう一つの話題は、辺野古抗議船転覆事故、磐越道マイクロバス事故における学校の対応、危機管理のあり方です。辺野古事故では、教育基本法違反が認定され平和教育の内容が問われていますが、それ以前に、修学旅行の安全確認がおざなりにされていた問題があります。マイクロバス事故においても、事業者によるバス運行かどうかの確認が学校サイドに欠けています。両死亡事故とも、引率教員は事故を起こした船、マイクロバスに同乗していませんでした。学校の通常の活動内の事故ですので、これを一般企業に当てはめると労働災害の発生とみなすことができるでしょう。

工場などで重大な労働災害が起きると大変です。警察が事件か事故かを調査。そして労働当局は、労働安全衛生法違反がないか、立ち入り調査を行います。死亡事故ともなれば、定期的な改善報告が求められるでしょう。また、民事の損害賠償、慰謝料も多額に上ります。会社の風評にも大きな影響が出ます。その意味では、この事故を見る限り、教育現場の安全に対する意識、事故への責任感は低いと言わざるを得ません。

園児、生徒、学生を預かる富山国際学園においても重要な教訓とすべきと考えます。

CONTENTS

- | | | |
|-----------------------------------|---------------|-------------------------------|
| □高校教育、最近の話題 | 理事長 金岡 克己 … 1 | □令和8年度予算概要 …………… 4～5 |
| □特集1 DXハイスクール2期目報告…………… 2 | | □令和8年度入試状況・令和7年度進路状況等 …………… 6 |
| □特集2 MDASH「応用基礎」認定で教育改革を深化…………… 3 | | □学園退職者・新任者一覧 …………… 6 |
| | | □富山国際学園 ご寄付のお願い…………… 7 |
| | | □学園NEWS …………… 8 |

DXハイスクール2期目報告

富山国際大学附属高等学校 情報科教諭 橋本 知彦

DXハイスクール第3期の採択校に選ばれ、引き続き「Regenerative Design」をテーマに、生徒が具体的な社会課題に向き合い、現実解を導き出す授業を行ってまいります。これまでSDGsやサステナビリティは、自然の資源などの消費をどれだけ抑制したり、禁止したりできるかがキーでした。「Regenerative Design」はそこから一歩進み、自ら再生産していく社会デザインのあり方です。例えば、自然が失われつつあるのであれば、人々が自然を増やすような社会システムを構築し、社会に正のインパクトを与えることが目標になります。



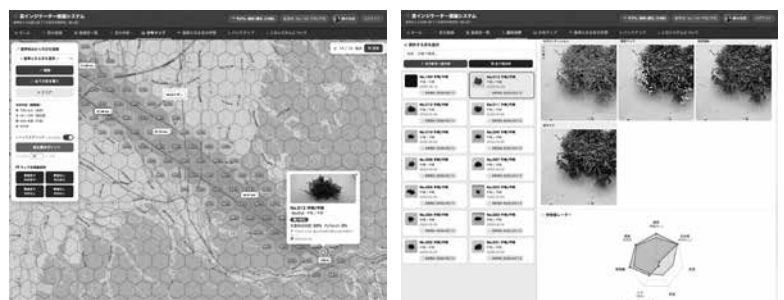
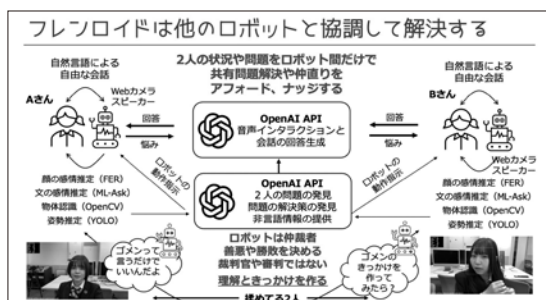
昨年度は、「Regenerative Design」を前提に、生態系を自律的回復の軌道にのせるネイチャーポジティブ、身体的心理的サポートを提供するソーシャルロボットと人工知能の活用を行いました。ネイチャーポジティブの活動は、学校屋上に農園を構築し、肥料を一才持ち込まず、異なる植物を密集させて混成密植する協生農法、そして人間に自然の恵みをもたらす生態系をデザインする拡張生態系を実践してきました。

肥料を使わない代わりに土壌細菌に注目し、BLOF理論に基づいて納豆菌を使った土壌改良にも挑戦し、比較実験を行いました。生態系といえば、昨年は熊被害が全国的に相次いだ年でした。「自然との共生」と言うのは簡単ですが、その本質を探るために、代表生徒と山形県の宮沢賢治記念館を訪れ、東北における自然と共生した土壌開発を学ぶことができました。また、秋田県ではマタギの頭領の方と一緒に山に入り、自然が発するサインを直接学ぶ機会も得られました。今年度は、ソニーコンピュータサイエンス研究所と共に、屋上農園の完成度をさらに向上させる予定です。また、生徒が開発したシステムを使用し、県内のあちこちの苔を画像分析、機械学習して、身近な生態系や都市環境、さらに21世紀の都市デザインを分析によって考えていきます。昨年度は、この成果を「第9回 サステナブル・ブランド国際会議 2025 東京・丸の内」や富山大学での「とやま探究フォーラム」などで発表することができました。また、農林水産省の「第1回みどり戦略学生チャレンジ」で「みどりイノベーション賞」(技術・アイデア面における革新的・独創的な取組に対する特別賞)を、第2回で奨励賞を受賞できました。

もう一つのソーシャルロボットは、中高校生など10代の心理相談を可能にするものです。物体認識、姿勢推定、音声インタラクション、OpenAIのAPIなど様々な人工知能のシステムを並列で使い、人間の苦悩に向き合うことを目指してきました。今では高校生の半数が気持ちの相談に生成AIを利用しており、そのうち約30%が毎日利用しているという調査結果があります。これを臨床心理学などの知見を盛り込み、意図した通りに動作するアライアンス、禁止事項を定めたガードレールを生徒と共に考えることができました。ロボットと向き合い、どうすれば人間の心理をくみとることができるのか考えることは、生徒自身が日常生活や人間関係、心のあり方を再考する人間探究の時間でもありました。実験の結果、人間と相談するよりも、談話の冒頭で自己開示が進み、最終的にネガティブ感情が解消される結果を得ることができました。この成果は、慶應義塾大学大学院の「第6回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2026」、東京都の「SusHi Tech Tokyo 2026」、富山大学での「とやまDXハイスクールフォーラム」にて研究発表することができました。

これらの授業を実践するために、様々なテクノロジーを環境面で揃えるだけでなく、デジタル技術を教員自身が学び、高度化する必要がありました。現在では、Claude Codeが常に動き続け、人間と人工知能による協働を実践しています。さらに、NVIDIA DGX Sparkなどを導入し、20年ほど前のスーパーコンピュータに匹敵する演算能力を生徒達は獲得しています。高密度のGPUを背景にデータをとり、人工知能に学習させ、実験し、さらに改良するという流れを、高校内で実現することができています。

最終的なゴールは、データサイエンスと人工知能による新しい価値創造です。これまでは課題解決が中心でした。これからは、いかにテクノロジーを背景に、その人なりの具体的かつ現実的な価値を提供できるようになるか、そのような人材をどれだけ育成できるかが、教育の指標になってきます。昨年度に引き続き、DXハイスクール事業を通して、高度なデジタル人材の育成を目指してまいります。



MDASH「応用基礎」認定で教育改革を深化

富山短期大学経営情報学科 教授 春名 亮

MDASHは文部科学省が令和3年度から開始した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のことであり、富山短期大学は令和6年8月にMDASHのリテラシーレベルの認定を受けました。「数理・データサイエンス・AI」は、データで社会を読み解くための専門的な知識や技術です。さらに、その高度化を目指すためのプログラムとして「応用基礎レベル」（以下「MDASH 応用基礎」という。）も設置されています。

富山国際大学現代社会学部は、令和4年度に北陸の私立大学で初めてMDASH 応用基礎の認定を受けました。リテラシーレベルとは異なり、学部・学科単位でも認定を受けることが可能です。

令和5年度から短期大学でもMDASH 応用基礎が認定されるようになりました。その事例やモデルカリキュラムを参考に、筆者の所属学科である経営情報学科での導入を検討し、令和7年度から「データ科学実践」（2年次前期・選択科目）として、MDASH 応用基礎の内容を学べる授業を開始しました。プログラム名は「データ・AI実践力養成プログラム」（以下「本プログラム」という。）とし、「データ科学実践」（筆者担当）の2単位を取得すれば修了できる効率的なプログラムであることが特長です。開始年度には本学科2年生48名が単位を取得しており、その実績をもとに自己点検評価報告書および申請書類を文部科学省へ提出し、審査の結果、令和8年2月末に本学科もMDASH 応用基礎の認定を受けました（図1）。

本プログラムが文部科学省に認定されたことは、富山新聞（令和8年3月4日付）で「MDASH 応用基礎レベル認定 富山短大経営情報学科」として掲載されました。

このロゴマークが入った修了証を本プログラムの修了者へ配付しており、履歴書の資格欄等に記載することが可能です（ロゴは異なるが、リテラシーレベルも同様）。



図1. MDASH(応用基礎レベル)の認定ロゴマーク

本学ホームページでもMDASHに関する情報を公開しています。

短期大学において、MDASH 応用基礎が1科目のみで認定されたのは、本学が全国で初めてです（短大での認定実績は、本学を含めて現在4校）。北陸の短大として認定を受けたのも本学が初となります。

このたびの認定により、学園として「応用基礎レベル」を提供できる教育体制が整い、令和7年度は国際大との合同講義も行いました（図2）。今後も、大学・短大の垣根を越えた連携をさらに深め、時代に即した教育を追求し続けてまいります。



図2. 富山国際大学子ども育成学部との合同授業の様子

生成AIが広く社会に浸透しつつある時流のなかで、本学の創立60周年を機にMDASH導入による教育改革を開始できたことは誠に幸運であったと考えております。本プログラムの修了者が地域社会の高度なデジタル化に対応可能な人材として、大いに活躍することを期待しています。

本プログラムの申請等において、ご支援いただきました教職員の皆様に改めて感謝申し上げます。（本稿は学園報第55号に掲載された特集3「MDASH導入による教育改革：創立60周年の新たな挑戦」の続編として執筆させていただきました。）

令和8年度 予算概要

令和8年度の事業計画及び予算は、去る3月24日開催の評議員会・理事会において承認されました。

各校の主な事業計画及び予算の概要は以下のとおりです。

【事業計画】

[大学]

- ①教育の質保証の向上をめざし、アクションプランに基づく多様な取り組みを推進
- ②外部資金の積極的な獲得
- ③国際化教育及び情報教育の充実を図り、ICTを活用したスマートキャンパス化を推進【現代社会学部】
- ④富山県における教育・福祉分野の専門の人材養成の核となるべく、保育・教育・福祉の人材育成及び情報教育を推進【子ども育成学部】

[短大]

- ①多様な入学生の受け入れ・確保に努め、教育の質保証と学生支援サービスの向上のための多様な取り組みを推進
- ②各学科の実践的専門教育の質の向上を図り、ICT教育を充実
- ③時代の変化に即した短大運営と改革、事業の見直し、危機管理などの諸課題への効率的な対応を推進

[高校]

- ①国際化教育及びICT教育を推進し、きめ細かい学習指導を実施
- ②「批判的思考力」「考え抜く姿勢」「実践力」を養い、課題解決力のあるグローバルリーダーを育成
- ③魅力ある教育サービスの提供のための教育環境整備

[幼稚園]

- ①幼稚園型認定こども園として、質の高い幼児教育の提供に努め、高まる幼児教育・保育ニーズに対応した取り組みを推進

資金収支予算書

令和8年4月1日から
令和9年3月31日まで (単位：千円)

	令和8年度 予算額	令和7年度 当初予算額	差 異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,804,826	1,756,382	48,444
	手数料収入	34,453	36,270	△ 1,817
	寄付金収入	3	1,503	△ 1,500
	補助金収入	794,601	677,023	117,578
	資産売却収入	1	1	0
	付随事業・収益事業収入	33,390	37,342	△ 3,952
	受取利息・配当金収入	3,380	2,320	1,060
	雑収入	63,352	83,815	△ 20,463
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	370,110	420,805	△ 50,695
	その他の収入	128,434	141,108	△ 12,674
	資金収入調整勘定	△ 508,815	△ 553,900	45,085
	前年度繰越支払資金	1,049,522	1,049,813	△ 291
収入の部合計	3,773,257	3,652,482	120,775	
支出の部	人件費支出	1,800,648	1,725,738	74,910
	教育研究経費支出	852,752	725,647	127,105
	管理経費支出	174,569	172,685	1,884
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	77,069	1,000	76,069
	設備関係支出	30,760	56,314	△ 25,554
	資産運用支出	230,512	4,512	226,000
	その他の支出	153,500	162,500	△ 9,000
	[予備費]	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	△ 105,448	△ 148,000	42,552
	次年度繰越支払資金	543,395	936,586	△ 393,191
	支出の部合計	3,773,257	3,652,482	120,775

事業活動収支予算書

令和8年4月1日から
令和9年3月31日まで (単位：千円)

	科 目	令和8年度 予算額	令和7年度 当初予算額	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,804,826	1,756,382	48,444
	手数料	34,453	36,270	△ 1,817
	寄付金	2,006	3,506	△ 1,500
	経常費等補助金	794,601	677,023	117,578
	付随事業収入	33,390	37,342	△ 3,952
	雑収入	63,351	83,814	△ 20,463
	教育活動収入合計(1)	2,732,627	2,594,337	138,290
	人件費	1,830,648	1,729,738	100,910
	教育研究経費	1,164,752	1,052,647	112,105
	管理経費	179,268	177,484	1,784
徴収不能額等	2	2	0	
教育活動支出合計(2)	3,174,670	2,959,871	214,799	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 442,043	△ 365,534	△ 76,509	
教育活動外収支	受取利息・配当金	3,380	2,320	1,060
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入合計(4)	3,380	2,320	1,060
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	3,380	2,320	1,060	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 438,663	△ 363,214	△ 75,449	
特別収支	資産売却差額	2	2	0
	その他の特別収入	3,603	3,603	0
	特別収入合計(8)	3,605	3,605	0
	資産処分差額	8,100	6,100	2,000
	その他の特別損失	1	1	0
特別支出合計(9)	8,101	6,101	2,000	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 4,496	△ 2,496	△ 2,000	
【予備費】(11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 458,659	△ 381,210	△ 77,449	
基本金組入額合計(13)	△ 85,298	△ 566	△ 84,732	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 543,957	△ 381,776	△ 162,181	
前年度繰越収支差額(15)	△ 3,107,838	△ 2,662,405	△ 445,433	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 3,651,795	△ 3,044,181	△ 607,614	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,739,612	2,600,262	139,350	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	3,198,271	2,981,472	216,799	

【事業活動収支予算】

事業活動収支予算において、収入では、学生生徒等納付金48百万円増、経常費補助金収入117百万円増となる一方、雑収入20百万円減などにより、事業活動収入計が2,740百万円（対前年度当初予算比140百万円増・5.4%増）となりました。

支出では、人件費100百万円増などにより、事業活動支出合計が3,198百万円（同217百万円増・7.3%増）となりました。また、基本金組入額85百万円余りを差し引いた当年度収支差額は、544百万円の赤字予算となりました。

【資金収支予算】

資金収支予算において、令和8年度の学園が行う諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、令和9年度入学生の前受金収入、令和7年度末の未入金等が計上されています。一方、支出として、人件費支出、教育

研究経費支出、管理経費支出、施設設備関係支出等が計上されています。その結果、令和8年度の諸活動に対するすべての収入・支出の資金として、3,773百万円（同121百万円増・3.3%増）が見込まれています。

【学園の財務状況】

学園の財務状況は、単年度ベースでは、昨年に続き赤字予算となりました。

赤字額の増加は、事業活動支出において人件費が前年度を上回ることを見込んだ予算となっているためです。本学園では、人件費比率が適正水準である60%を超えているため、適正化に努めなければなりません。また、収支改善のために収入の大半を占める学生生徒等納付金と経常費等補助金の予算を確実に確保し、新たな収入源を確保するとともに、支出予算の効率的かつ効果的な執行に努めなければなりません。

令和8年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部 門	法 人	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額
教育活動収支	収入業の活動	学生生徒等納付金	0	787,940	526,105	490,241	540	1,804,826
		手数料	0	11,358	9,430	13,650	15	34,453
		寄付金	1	2	3	1,000	1,000	2,006
		経常費等補助金	0	232,407	162,539	301,824	97,831	794,601
		付随事業収入	0	15,514	11,344	0	6,532	33,390
		雑収入	4,500	23,614	20,366	14,871	0	63,351
		教育活動収入合計(1)	4,501	1,070,835	729,787	821,586	105,918	2,732,627
	支出業の活動	人件費	39,894	652,377	539,527	527,623	71,227	1,830,648
		教育研究経費	46,538	475,448	379,021	212,603	51,142	1,164,752
		管理経費	12,848	79,132	59,177	26,887	1,224	179,268
徴収不能額等		0	1	1	0	0	2	
	教育活動支出合計(2)	99,280	1,206,958	977,726	767,113	123,593	3,174,670	
	教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 94,779	△ 136,123	△ 247,939	54,473	△ 17,675	△ 442,043	
教育活動外収支	収入業の活動	受取利息・配当金	3,030	200	150	0	0	3,380
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入合計(4)	3,030	200	150	0	0	3,380
	支出業の活動	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0	
	教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	3,030	200	150	0	0	3,380	
	経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 91,749	△ 135,923	△ 247,789	54,473	△ 17,675	△ 438,663	
特別収支	収入業の活動	資産売却差額	0	1	1	0	0	2
		その他の特別収入	0	1,000	1,003	1,000	600	3,603
		特別収入合計(8)	0	1,001	1,004	1,000	600	3,605
	支出業の活動	資産処分差額	0	2,000	5,500	600	0	8,100
		その他の特別損失	0	0	1	0	0	1
	特別支出合計(9)	0	2,000	5,501	600	0	8,101	
	特別収支差額(10)=(8)-(9)	0	△ 999	△ 4,497	400	600	△ 4,496	
	【予備費】(11)	2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500	
	基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 93,749	△ 141,922	△ 257,286	51,873	△ 17,575	△ 458,659	
	基本金組入額合計(13)	△ 17,409	△ 76	△ 25,505	△ 41,052	△ 1,256	△ 85,298	
	当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 111,158	△ 141,998	△ 282,791	10,821	△ 18,831	△ 543,957	
	前年度繰越収支差額(15)	—	—	—	—	—	△ 3,107,838	
	基本金取崩額(16)	—	—	—	—	—	0	
	翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	—	—	—	—	—	△ 3,651,795	

(参考)

事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	7,531	1,072,036	730,941	822,586	106,518	2,739,612
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	101,280	1,213,958	988,227	770,713	124,093	3,198,271

富山国際学園 入試状況・進路状況等

令和8年度入試状況

大学

(令和8年4月2日現在) (単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	194	192	182	99
子ども育成	90	211	210	190	101
合計	210	405	402	372	200

短大

(令和8年4月2日現在) (単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	60	78	76	76	64
幼児教育	80	84	83	82	71
経営情報	80	101	99	99	81
健康福祉	20	15	15	15	13
食物栄養専攻	15	11	11	11	11
合計	255	289	284	283	240

高校

(令和8年4月8日現在) (単位:人)

コース	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	2クラス	159	159	65
特進コース	2クラス	447	447	68
フロンティアコース	5クラス	431	429	184
合計	9クラス	1037	1035	317

令和7年度進路状況

(令和8年5月1日現在) (単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	121	114	113	99.1	5
子ども育成	94	87	87	100	5
合計	215	201	200	99.5	10

(令和8年5月1日現在) (単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者	研究生
食物栄養	61	60	58	96.7	0	
幼児教育	56	54	53	98.1	1	
経営情報	101	89	88	98.9	9	
健康福祉	26	23	23	100	3	
食物栄養専攻	8	4	4	100	0	4
合計	252	230	226	98.3	13	4

(令和8年3月31日現在) (単位:人)

大学	合格者	入学者	短期大学	合格者	入学者	その他	合格者	入学者	卒業生
富山国際大学	30	19	富山短期大学	14	14	専修-各種学校	62	61	263
国公立大学	26	23	公立短期大学	0	0	就職	8	8	
他の私立大学	215	119	他の私立短期大学	7	6	その他		13	
海外大学	1		合計	21	20	合計	70	82	
合計	272	161							

令和8年度入園児童

幼稚園

(令和8年4月1日現在) (単位:人)

	男	女	合計
3歳児	10	9	19
4歳児	1	0	1
5歳児	1	0	1
合計	12	9	21

※新入園児のみ

令和7年度卒園児童

(令和8年3月31日現在) (単位:人)

	男	女	合計
5歳児	17	8	25

◆退職者一覧 (令和8年3月31日付)

- 〈大学〉 上坂 博亨 教授 (現代社会学部)
 川本 聖一 教授 (現代社会学部)
 辻 和希 講師 (子ども育成学部)
 石黒 栄子 課長 (教育研究部学務課 (学生支援担当))
 中田 敦子 主事 (教育研究部学務課 (学生支援担当))
- 〈短大〉 中島眞由美 教授 (健康福祉学科)
- 〈高校〉 中山 哲秀 教諭 (数学)
 本田 一将 教諭 (国語・書道)
 本波 弘一 教諭 (数学)
 山本 昭弘 教諭 (英語)
 上田 弘子 教諭 (理科)

◆新任者一覧 (令和8年4月1日付)

- 〈大学〉 清水 隆之 講師 (現代社会学部)
 亀谷 三志 講師 (現代社会学部)
- 令和8年2月1日付
- 石黒 慶太 講師 (子ども育成学部)
 山崎 裕平 主事 (教育研究部学務課 (教務担当))
- 〈高校〉 長島 伸 教諭 (数学)
 松林 俊希 講師 (理科)
 宮脇 竜成 講師 (地歴・公民)
 紫 康德 講師 (理科)
- 〈幼稚園〉 山森 奏和 保育教諭

富山国際学園 ご寄付のお願い

学生・生徒・児童の未来のためご支援をお願いいたします

本学園では、学生・生徒・児童がより良い環境で学び、実り豊かな学園生活を送れるよう、質の高い教育・研究の充実に加え、教育環境の整備に努めております。

この度、この活動をさらに推進するため、皆様からの温かいご支援を賜りたく、ご寄付を募らせていただくことになりました。皆様からお寄せいただいたご寄付は、ご希望の用途に沿って、有効に活用させていただきます。

寄付金額

個人一口:3千円

法人一口:5万円

※何口でもお申し込みいただけます。また、一口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。

寄付金の使途例

教育の質向上の取組、課外活動支援、国際交流促進、教育研究施設・設備の充実、など

※ご希望の機関(大学、短大、高校、幼稚園)及び使途をお選びいただけます。

お手続きの流れ

① ご寄付申込フォーム(二次元コード)に必要事項をご入力ください。

※寄付金申込書のご提出によるお手続きをご希望の方は、以下ウェブサイトをご確認ください。

・富山国際学園ホームページ <https://www.tii.ac.jp/donation>

② ご入力いただいた情報を確認の後、振込依頼書をお送りします。指定の口座にご入金をお願いいたします。



税制上の優遇措置(個人、法人)

詳細は、ウェブサイトにてご説明しております。(お手続きの流れ①記載のURL参照)

【税制上の優遇措置(個人)】

所得控除の制度を確定申告の際に利用することができます。また、個人住民税についても控除される場合があります。入金確認後にお送りする「寄付金受領書」を添えて、所轄税務署に確定申告してください。

【税制上の優遇措置(法人)】

法人からのご寄付については、寄付金額を当該事業年度の損金に算入できます。「特定公益増進法人への寄付金」または「受配者指定寄付金」のいずれか一方を選択し適用を受けることができます。

問い合わせ先

学校法人富山国際学園 本部事務局 寄付金担当 TEL 076-436-5139 MAIL honbu@tii.ac.jp

～令和7年度 寄付者のご紹介～

ご寄付を賜りました皆様のご厚志に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

令和7年度(4月1日～翌年3月31日) 寄付者のご芳名一覧(五十音順・敬称略)

◇法人 株式会社翔建工業

◇団体 特定非営利活動法人リボンfromとやま、富山国際大学同窓会蒼昊会

◇個人 浅野栄子、石塚盈代、石動瑞代、今村照子、太田祐美、金田桜子、上滝潤昌、河内誠、清水京子、住悦子、高木年子、高木綾子、瀧澤功、竹内弘幸、寺岡千恵子、寺崎恒智、西田桂子、野上智子、平井晶子、藤井喜代美、藤田恭輔、三川浩暉、宮田伸朗、安川和子、柳美喜子、吉田紀子、若林多歌子

※ご寄付いただいた際、お名前の公表にご承諾いただいた方々のお名前を掲載しております。匿名でご寄付いただいた皆様にも厚く御礼申し上げます。

富山国際大学

国の支援事業に採択！大学間連携で『“スープの冷める距離”連携による教育機能の高度化と経営の効率化』始動！



大学等連携推進法人「一般社団法人学修評価・教育開発協議会」の会員校のうち6校（関西国際大学、札幌国際大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学、富山国際大学、松本大学）が連携し進めている戦略的経営改革計画「“スープの冷める距離”連携による教育機能の高度化と経営の効率化」が、文部科学省の令和7年度「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業において、メニュー2「複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援」の対象として選定されました。

この事業では、少子化・人口減少社会における会員大学の経営課題を共同で克服し、地域社会にとって必要不可欠な存在としての役割を強化することをめざします。

地域連携とグローバル教育推進の実績を活かし、教育・人材育成・研究活動の円滑な実施、リソースの共有・効率化、及び教育機能の高度化を通じて、地域社会の持続的な発展に貢献する多様な人材を育成し、イノベーションと地域活性化を促進します。

令和6年度に本学の「TUINSホタルイカプロジェクト」が同改革支援のメニュー1「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」に選定されており、本学は二つのメニューで選定されることとなりました。

富山短期大学

実習の成果や課題を全体で共有し、次のステップへ

2026（令和8）年4月27日、「介護計画実習報告会」を健康福祉学科1・2年生合同で開催しました。

これは、2年生が、1年次の頃の実習（2月に3週間にわたり実施）で得た気づきや学びを全体で共有し、今後に繋げることなどを目的としたものです。

利用者理解では、信頼関係をまず築くことや、看護師など他職種からも情報収集を行うことが重要と発表されました。質疑応答では、夏に初の実習を控える1年生から、熱心に質問が寄せられ、また教員からは、今回の実習報告集に書かれていることを参考にしながら、1・2年生ともに夏の実習に向けて準備をすすめてほしいと助言がありました。

2年生全員、新たな視点に気づくとともに、1年生はやる気を高める機会になったようです。



富山国際大学附属高等学校

新入生を迎えて



2026（令和8）年4月8日に317名の新入生を迎え、第63回入学式を挙行しました。中川校長は式辞で、「グローバル人材を育てる国際高でチャレンジを重ね、自分の世界を広げてほしい。様々な学習機会を通して国際的な視野と情報の本質を身に付け、一日一日を大切にそれぞれの歩みを進めてください」と新入生に呼びかけました。金岡理事長からは、「国際化と情報化という二つの柱を持つ国際高は、文武両道で活躍する生徒が多くいる。多様性に満ちた環境で、それぞれの個性を思い切り伸ばして」との激励がありました。そして、新入生代表の坂井美月（さかい みつき・富山市立東部中学校出身）さんが、「高校3年間で様々なことに挑戦したい。海外での研修や異文化交流など、実際に世界とつながる経験を通して多様な知識と広い視野を獲得したい。」と決意を述べました。

全学年9クラス編成となり、ますます魅力ある学校となるよう、教職員一丸となって、尽力していきます。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

親子で楽しんでね～親子サークル～

みどり野幼稚園では、毎週水曜日の9時30分から11時30分まで、未就園児の親子サークルを開催しています（5月から、年30回）。0歳から3歳までのお子さん保護者の方と一緒に来園し、子育て支援室でままごとやパズル、ブロック遊び、シール貼りや簡単な制作活動などを楽しんでいます。また、保護者同士が交流できる場にもなっており、保育者も加わりながら、子育てについてゆったりと話ができる和やかな時間を大切にしています。さらに、講師の先生による運動遊びやベビーマッサージ、読み聞かせのほか、保育資格のある保護者の方が手遊びや歌遊びを披露して下さる回もあり、内容の充実を図っています。

